



倉沢サンサ踊りを披露する子どもたち

練習の成果を元気に披露

躍動する芸能まつり

1月27日、「躍動する芸能まつり」が東和総合福祉センターで行われました。東和町芸術文化協会の主催で行われた同催しには、郷土芸能に取り組み10団体の子どもたちが出演。神楽やさんさ踊りなどを披露し、詰め掛けた来場者から大きな拍手が送られていました。「清流田瀬子ども太鼓」に出演した吉田萌乃佳さん（東和小6年）は「たくさんの曲を覚えることや掛け声をみんなで合わせるところが難しい。きょうは上手にできた」と話していました。

ゴール目指して力走

花巻市内小学校クロカンスキー大会

「第32回花巻市内小学生クロカントリースキー大会」が2月3日、太田の高村山荘クロカンスカントリーコースで行われました。学年、男女別の個人競技と学校対抗のリレー競技が実施され、市内7校から児童120人が出場。小雪の降る天気の中、出場者たちはコース脇の保護者や先生の声援を受けながら、ゴールを目指して力走しました。佐々木真那さん（湯小5年）は「家族の応援があつて、いつも以上に力が出せた。楽しかった」と笑顔を見せていました。



起伏に富んだコースを懸命に滑走する児童

文化財の防火意識を新たに

第64回文化財防火デー訓練

1月28日、市内4地域で「第64回文化財防火デー訓練」が行われました。うち花巻地域では、小瀬川の熊野神社を会場に、通報訓練や重要物件搬出訓練、火災防訓練などを実施。参加した消防団や地域住民など142人は、訓練を通して文化財の愛護と防火意識を新たにしていきました。同神社宮司の吉田耕朗さんは、「熊野神社は1000年以上の歴史があるといわれている。これからも地域や文化財の防火をお願いします」と呼び掛けました。



「火災防訓練」で一斉に放水する消防団員

街中の芸術発表の拠点

賢治のまちづくり

第67回

上町商店街の一角にある賢治の広場。「ここが街中の羅須地人協会になれば」と話すのは、賢治の広場スタッフの柴田悦子さんです。羅須地人協会は、賢治が農民の日常生活を豊かにすることを目的に設立。農業技術や芸術などを講義・指導しました。

「イーハトーブの大きな絵本」や賢治が生きた時代の品物を紹介する「花巻大正モダンズムコーナー」、マントと帽子で賢治の格好ができる「みなさんは賢治さんコーナー」などを常設。施設内の展示を自由に鑑賞することができます。ぜひ皆さんも足を運んでみてください。



▲賢治の広場にある立体童話「イーハトーブの大きな絵本」

賢治の広場

▽開館時間：午前9時30分～午後5時30分
※毎週水曜日、12月29日～翌年1月3日は休業
▽電話：24-0818

問い合わせ

本庁賢治まちづくり課
(☎)24-2111 内線365

世界と花巻

The world and HANAMAKI

vol.57



花巻市国際都市推進員
ガットマン・ジェシー

「バレンタインデー」

大切にしている人への愛を表現する2月14日の「バレンタインデー」。今や世界中に浸透している記念日ですが、国によって慣習などが少し異なります。欧米では性別にかかわらず、カードや花などを恋人に贈る日とされています。ですから日本のように「友チョコ」や「逆チョコ」という慣習もありません。そうそう、私のように「自分のためにチョコを買う」という人もたくさんいますよね。

とにかく私にとって興味深いのは、人々のバレンタインデーに対する考え方が時代と共にどのように変わってきたかということです。

そもそもバレンタインデーは、キリスト教の聖人「聖バレンタイン」に由来するといわれています。一説によると、昔ローマでは兵士の士気の低下を恐れ、兵士たちの結婚を禁止していました。しかし聖バレンタインは兵士たちを哀れみ、

秘密で結婚式を行いました。これが原因で聖バレンタインは処刑されましたが、恋人たちの守護者とあがめられ、処刑された2月14日が「バレンタインデー」になったといわれています。

「バレンタインカード」も、聖バレンタインが書いた手紙が起源といわれていますが、今はあらかじめ印刷されたカードや、これにちなんだ商品がたくさん売られていますね。特にアメリカのとある会社は、バレンタインカードなどの関連商品をたくさん販売することで大きく成長しました。時と共にバレンタインデーはその起源から離れ、いつの間にか商業目的に利用されるようになってしまったのです。

しかし、最近ではこのことに気付き、違和感を覚えている人も多いように思います。高価なプレゼントがなくても、大事な人と大切なひとときを過ごす人が増えてきていると感じます。